

感じは好いが手前の石の色の冷たい色とは不調和のきらいがある、平野環氏の残照は調子の好いしめつぽい色の畫だが前景の草と材木は餘りに柔かくつて最少ししつかりした處がほしい又中景の夕照の當つた家に鋭筆の輪廓が強く残つてゐるのは大變目ざわり注意すべき事だ、車はなくて好いと思ふ、他に吉田氏角田氏の作が三點宛出ていたが皆同じ様に調子の弱い畫で自分は此の様な人達の未來は望み多い事だと思つて参考室に入る満谷氏の油畫二枚出て居た、村の入口より四ツ手綱の調子も好いし感じがよいと思つた河合氏の油畫も有つたが皆取るにたらないスケッチ許りだつた、茨木氏の水彩は三枚出て居たが中でも驛路は殊に善い右手の家のカベの色など實に好い人物なんぞ活動して居る他の山中湖より本栖湖の方が感じが善い、吉田氏の春も秋も丁寧な畫だが自分は秋の方が善いと思つた、中川氏の伊豆海手前の松は少しどうかと首をかしげさせるが中景の水から遠景の山はふるへつく様に善かつた、石井柏亭氏の伊太利の花賣娘は善く描いて有つた其外に故淺井忠氏の小品が二枚出て居たが皆な筆使いの氣色の善い畫だつた

終りに正面の床の間の前へくると其處に故大下先生の遺作が十數點先生の寫眞のまわりに並べて有つた自分は其處迄來てかぎりない悲哀を感じ、しばし先生の事どもを思ひ出し、そして生けるが如き先生の面影を見てそぞろ今昔の感に絶えなかつた噫！先生は死んだ最ふ來年からの展覽會には先生の畫を見る事が出来な、のだ自分は唯々此の溫厚玉の如き先生を我が畫

壇より永久に奪ひ去つた無情なる天帝を恨む者の一人て有る自分此處に一句をつゞりて此の稿を終る

庭の木の一枝折れて秋の風、

手前味噌

談 湯 木

我々アマチュアの水彩畫作品にコンミツション付の批判評價は禁物である。面白づくで勞作するのであるから多少畫としては缺點批難の打處はあるに相違ないが、その氣品といふことを買つて戴きたい。赤裸々なる自然美と作者の人格が表現されてこそ立派なものである。私は畫家でないから下手ですの拙いもんですとの御世辭や遠慮は寸毫もいらぬ、斯道に造詣深いことを見て戴けばよいのである。どしどし黒人畫家をいぢめてやる程氣のよいものはない、先方も一生懸命此方も頗る眞面目である、こうなると面白づくもどうのこうのと云ふ問題はそつちのけにして、せつせと自然の肖像畫を抜きとつて終ふ。この觀念ほど我々アマチュアにとつて幸福な事はあつたらない。

我々一枚のスケッチをやれば一枚仕上げねば氣が濟まぬ様に思ふ、高價なワットマンに對しても張込んだニューマン製繪具に對しても申譯がない様に思はれる。この濟まない事實が我々アマチュアにとりて、なかなか金錢に替へられぬもので、苦しい思ひが他の職業とはいささか趣を異にした觀がある。

アマチュアが展覽會を観ると自分の嗜好にまかせて作品を拜見して居る、時とすると早速その日の午後からスケッチ箱を荷

つて、彼塵空氣の風景はないか構圖はないかと徒勞することもある。兎に角、得手勝手すぎるのは困つたもので、自己衷心の高い草でもないのに、色彩が乏しいの、構圖が悪いの、少し毛色が異へば私にどうもわからむ、と畫家の苦心はどこにあるやらそんな考へもなく、早速隨感直的に言つてのける、甚だしいのは作者を踏みつける、誰々は弟子や塾生より下手だよなどは平氣なもので、自分の片足とられて居るのに自迷語をつらねて居る、藥に飲んで毒にするのはアマチュアの繪畫規賞法だとか。

何時までたつても時の力の偉大なるを知りつつ上達せないのは種々風説にあるごとく、自己を見出さぬためと、態度の不眞面目等より出來するものであつて、自己力量の不充分に眼が肥え過ぎたりするからであつて、一つは安定するからであらうと思はれる、自分はアマチュアであるから等はよく耳にする言葉である、アマチュアでも上手の境域に達する方がよい、何をやつても眞摯なのがよいと思ふ。これが我々の美術に對しても貴重な格言である。

私一個人としての作品は、昨今の境遇がしからしめる故か、頭が理論的、情熱的、哲理的、に動いて頗る冷靜になつたのはよいが、ふくらなる感情生活の一部分に眼を喜ばし頭の靜養をする餘地たるべき繪畫そのものに就て、かなしい生の執着にとらはれて終つて幾分にも幼い時分の蜜蜂の様な氣分も玉蟲のやうに甘い歡樂の少年時代も過ぎ去らうとして青年時代の枯談に

捉はれやうとする。そこで繪畫——美術に離れむとして別れることの出來ない愛着やみがたい分子はあつても、私の作品は頗る過去二三年よりも拙劣となつて終つて、デッサンの必要は二三年もやれば物の形だけでも寫せるやうになるだらう位に廢退して終つた。頭兀けても心配するなとは近頃の流行唄の何んて間がいいんでしやうにある如く、これでも帽子冠れば立派な紳士に見えるのは心うれしいが私は私の審美眼によりて永久私の作品も出來ることと樂觀して居る。水彩畫は私の娛樂的分子の多い高貴な貴族生活よりも充實して居るのである。

三越洋畫展覽會の水彩畫

大阪 富岡 洗帆

舊白馬會の出品展覽會は十一月一日より開催された。總數三百點餘、水彩畫は其内三十餘點であつて大幅も多くは油畫の方にあつた。

三宅氏の作十餘點構圖も月並だし色彩も皆同じようて僕は感心しなかつた。中で「樹木流」は好ましい作である、

中澤氏の「鴨川の雨」あまり雑とした筆づかいで雨らしく見えるが僕等には分らぬ「淡路島のパステルは目錄を見ぬ内はみづゑだと思つた南氏の作品十枚ばかり過半は外國での作である、「瀬戸内海」が一番よかつた。

瀬野氏の出品四點小品ではあるが皆丁寧の作だ、「追分にて」は美しく「古驛」の構圖も變つて居るそしてしめつた空氣の感じ